

第8回 一億総活躍国民会議
議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：平成28年5月18日（水）08:30～09:15

2. 場 所：官邸4階大会議室

3. 出席者：

議長	安倍晋三	内閣総理大臣
議長代理	加藤勝信	一億総活躍担当大臣
構成員	菅 義偉	内閣官房長官
	石原伸晃	経済再生担当大臣・内閣府特命担当大臣 (経済財政政策)
	石破 茂	まち・ひと・しごと創生担当大臣
	高木 毅	復興大臣
	麻生太郎	財務大臣

(有識者)

大日方邦子	日本パラリンピアンズ協会副会長
菊池桃子	女優、戸板女子短期大学客員教授
工藤 啓	認定特定非営利活動法人育て上げネット理事長
榊原定征	日本経済団体連合会会長
白河桃子	相模女子大学客員教授、ジャーナリスト
高橋 進	日本総合研究所理事長
対馬徳昭	社会福祉法人ノテ福祉会理事長
土居丈朗	慶應義塾大学経済学部教授
樋口美雄	慶應義塾大学商学部教授
増田寛也	東京大学公共政策大学院客員教授
松爲信雄	文京学院大学人間学部名誉教授
松本理寿輝	まちの保育園代表
三村明夫	日本商工会議所会頭
宮本みち子	放送大学副学長

松下新平	総務副大臣
義家弘介	文部科学副大臣
竹内 譲	厚生労働副大臣
佐藤英道	農林水産大臣政務官
高木陽介	経済産業副大臣
山本順三	国土交通副大臣

(議事次第)

1. 開 会
2. 「ニッポニー億総活躍プラン」(案)について
3. 内閣総理大臣挨拶
4. 閉 会

(説明資料)

- 資料 1 : 第 7 回 一億総活躍国民会議 議事要旨
資料 2 : 「ニッポニー億総活躍プラン」(案)
資料 3 : 石破大臣提出資料

(概要)

○加藤一億総活躍担当大臣 おはようございます。ただいまから第 8 回一億総活躍国民会議を開催させていただきます。

朝早い時間からお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

本日は飯島議員が御欠席となっております。

本日は国会がございまして、関係大臣の欠席が多くなっておりますが、そうした事情でございますので、恐縮でございますが、御容赦いただきたいと思います。

また、第 7 回の国民会議で御議論いただいた議事要旨は資料 1 としてお手元に配付をさせていただきます。

議事に入らせていただきます。

本日は、総理より 5 月中に取りまとめるように御指示をいただきおりました「ニッポニー億総活躍プラン」について、これまでの御意見を踏まえて事務局において案を作成いたしましたので、その御審議をお願いしたいと思います。

既に議員の皆様には案文を御説明させていただいており、また、修文に関する御意見も頂戴しておりますので、直ちに議論に入らせていただきたいと思います。

有識者全員の方から御発言の希望をいただいておりますので、恐縮でございますが、いつものように、対馬議員から順次お願いをしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○対馬氏 対馬でございます。

このたび示されました「ニッポニー億総活躍プラン」が実行され、介護離職ゼロが実現されるよう、介護現場で働く一人として全力を挙げて頑張る所存でございます。

そして、その鍵を握るのは、3 年に 1 度の介護報酬の見直しの際、介護職員の処遇改善を推し進めることであると考えます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

げます。

以上でございます。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、工藤議員、お願いいたします。

○工藤氏 おはようございます。たくさん大切な案件ことが盛り込まれる中で、私が知り得る限り、ここまで若い世代のことに言及されたものは記憶にありません。引き続き奨学金の問題等もありますけれども、支援現場の人間としましては、このプランを多くのステークホルダーの皆様とコミュニケーションをとる中で進めていき、実践と成果につなげていきたいと考えております。

以上です。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、松本議員、お願いいたします。

○松本氏 松本理寿輝でございます。

待機児童対策、人材確保のため、質のため、保育士等の処遇改善を進めていただくことになりました。このことは大きな一歩であると思います。今後、しっかりとキャリアアップの仕組みを構築し、技能・経験を積んだ職員が評価され、活躍していけるよう、全体で動いていければと思います。

さらには、保育が社会的役割と責任を果たした上で、保育の高度な専門性がしっかりと社会に認められたところで、男女共同参画社会の中でありますから、やがては女性の全産業平均とされている賃金差の目標から女性のものをとった全産業平均にまで高めていければとも願っています。そのために頑張っていきたいと思います。

また、全ての子供が希望する教育を受けられる環境のため、大事なことを盛り込んでいただきました。ひとり親・多子世帯への支援、フリースクール、幼児教育無償化、教育費負担軽減などについてのさらなる議論の深まりと意義のある実行を期待いたします。

まとめとして、この一億総活躍国民会議はあらゆる立場の専門家が広い視点で議論いたしました。子供・子育ての環境は専門領域のことだけでなく、社会全体で総合的に手をかけていく必要があると思います。この点でこのたび、包括的なお話ができましたこと、それを参考にプランが作成されましたことは大変意義深いと思っております。

一億の中には子供も含まれます。子供が健やかに育つ国の未来は明るい。そのことは親を支え、地域や社会のあり方にも影響を与えます。子供の成長と国の成長もまた強い循環をするものと思っております。今後とも国民的対話を続けていただきまして、オールジャパンで一億総活躍社会の理念に掲げた、希望のある社会づくりに挑んでいければと思っております。

ありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、宮本議員、お願いいたします。

○宮本氏 宮本でございます。

今回のプランが、一億総活躍社会の実現に向けた横断的な課題ということで働き方改革を大きく位置づけたことは大変よいことであると高く評価したいと思っております。これまでの男性の正社員中心、長時間労働などの日本型の労働慣行が少子化の原因をつくり、女性の社会参画を阻み、社会の進歩を阻害していたということをこのプランで真っ向から確認をしたということは大変大きな前進であると思っております。

今後、同一労働・同一賃金、それから、正規・非正規労働の格差是正、適正な労働時間の実現。これをロードマップに従って着実に改革を進めていただくことを期待すると同時に、私自身もできることをいろいろとさせていただければと思っております。

1点だけ補足させていただきたいのですが、この一億総活躍社会というものは単に成長を実現するだけではなく、さまざまな脆弱性のある人々を排除せず、これからの人々を含む全ての人々の安定した生活の基盤の保障、それから、居場所と役割があり、豊かな社会環境を築く社会であるというイメージを広く国民に今後とも広げ、国民の広い支持を得ていくということを通して、実現がより確実なものになると思っております。

よろしくお願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

高橋議員、お願いいたします。

○高橋氏 昨年緊急対策に加えて、今回の取りまとめが行われたことによって保育や介護の供給サイドが強化されること、それから、働き方の改革が大きく進むこと。これによって、一億総活躍社会の実現に向けた大きな第一歩になると確信しております。

ただし、もちろん、これで終わりではないと思っております。引き続き、家計、とりわけ子育て層を支援していくことが政府の課題であると認識しております。したがって、最低賃金を含む賃金を持続的に引き上げていくこと。これが基本ですけれども、さらに政府を挙げて、引き続き社会保障改革を通じて歳出抑制効果を生み出し、子育て世帯に還元する仕組みを構築して、子育て支援政策のさらなる充実を目指していくこと。もう一つ、今回明確に方向が示された労働市場改革についても、その実を上げ、さらに深掘りをしていく。こういうことが必要であることを強調させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、白河議員、お願いいたします。

○白河氏 このたびは安倍総理の力強いリーダーシップのもと、すばらしい一億総活躍プランが策定されました。かかわらせていただきましたことを感謝いたします。

特に長時間労働是正について、三六協定における時間外労働のあり方についての再検討を開始するという文言に総理の強い決意を感じました。今回、榊原会長を初め、議員の皆様のご提言もあり、長時間労働是正に関して大きな進展があったことは、日本の歴史に残る事実になると思います。

長時間労働是正は、少子化対策のレバレッジポイントであります。今後、法制強化、上限規制、インターバル規制など、法改正等を進んでいただきたいと思いますが、少子化に効果があるのはそのタイミングです。団塊ジュニア世代は一番下が41歳です。40代でも年間5万人、全体の出生数の4%を出産していますが、女性の出産が厳しくなるのは43歳ぐらいからです。あと2年の間に長時間労働を是正しないと、ボリュームゾーンである団塊ジュニア世代の出産適齢期が終わり、少子化への効果が小さくなります。いつ長時間労働に上限を入れるかが今後100年の歴史を決めると思います。

三六協定に上限を入れれば、同一労働・同一賃金も進みます。正社員は時間の制限なく働くという合理的な説明ができなくなるからです。総理のリーダーシップのもと、ぜひ早期の実現に進めるようお願いいたします。

そして、前回お願いした、保育園反対運動の方への総理からのメッセージを子育て世代は望んでおります。総理みずからイクボス宣言をしていただけると、子育てを応援されているという社会が実感できると思います。

また、給付型奨学金についても、将来的には創設の方向性への検討をよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

それでは、榊原議員、お願いいたします。

○榊原氏 このたびの「ニッポン一億総活躍プラン」、非常に幅広く、しかも包括的で、踏み込んだ内容にまとめていただいたと思っています。総理、加藤大臣はじめ御関係の皆様方のリーダーシップ・御努力に敬意を表したいと思います。私ども経済界も、その実現に向けて最大限の努力をしてみたいと思っています。

2点、具体的に申し上げたいと思います。

まず、同一労働・同一賃金の実現についてですが、非正規従業員の処遇改善は経済の好循環にも不可欠であると考えております。経済界としましては、非

正規従業員の正社員化、それから、時給の引き上げ、賞与・一時金の支給あるいは拡充などを含めて、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

一番のポイントは、不合理な待遇差を是正するという点でございますが、今後、我が国の雇用慣行も十分に留意しつつ、労働政策審議会等の議論に積極的に対応してまいりたいと考えております。

2番目は、長時間労働の是正についてでございますが、長く職場にいたことが評価されるといった企業文化・企業風土を変えていかなければならない。それには、やはり経営トップのリーダーシップが必要と考えます。そこで経団連では、今年、この1年を働き方・休み方改革集中取り組み年と定めまして、経営トップに改革を呼びかけてまいります。

具体的には、この7月に経済4団体による働き方・休み方改革セミナーを開催するほか、秋には年休取得プロモーションを実施したいと考えております。さらに、各業界団体に対して、業界独自の取り組み計画の策定。これを要請したい、呼びかけたいということで、経済界としての取り組みをこれまで以上に強力に進めていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、菊池議員、お願いいたします。

○菊池氏 菊池でございます。

人口問題に真正面から取り組む、未来に向けた力強い議論に参加させていただきまして、ありがとうございました。

少子高齢化という言葉が当たり前に頻出するようになってから長い時間がたっております。段階的に解決に向けて取り組んでまいりましたが、難しい課題となったまま総人口減少時代が到来し、険しい道を誰もが想像することになり、今日を迎えています。

一億総活躍の議論の中では、少子化対策、御高齢者への対策の基盤を強化し、広い意味での経済政策の構築のモデルを打ち出しました。しかし、国民会議では一見重苦しい課題が山積していると思われる中で、明るい光も見つけることができました。それは全員参加型の社会という言葉が強調されていたからだと思います。包摂と多様性を人材の観点から、性差を超え、年齢差を超え、身体の特徴を超え、時には国籍の壁を超え、多様性・ダイバーシティが大切に考えられました。

一つの例を申し上げますと、第2回国民会議で発言させていただいた、現在、学校の受験資格や企業の採用資格に、心身ともに健康、または心身ともに健全と、特段の説明もなく、一律排除するような文言の記載が見られることについて、驚くようなスピード感で文部科学省から学校関係者の皆様に、厚生労

働省から経済団体の皆様に、改善の通知がされました。本当にありがとうございました。

また、一億総活躍プラン本文の15ページ、4. の「(3) 障害者、難病患者、がん患者等の活躍支援」の項目の中に、障害のある子供も、障害のない子供と可能な限りともに学べるようにし、自立や社会参加を果たせるように環境を整備する。特に、平等に担保されるはずの小中学校義務教育がかなわなかった、障害や病気を持った、学習を希望する児童・生徒への提案について、通級指導を推進するとともに、高等学校においても通級指導を平成30年度から新たに制度化し、小中高等学校あわせて指導内容や指導体制等の環境整備を進めること、インクルーシブ教育への提案も取り入れられることになりました。子供たちの芽を支援する内容を盛り込んでいただきまして、本当にありがとうございます。

この会議での議論の内容は多岐にわたり、どのプランも中長期的な視座を持って恒久的な政策として工夫をしていただくことを切に願います。

どうもありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございました。

続いて、増田議員、お願いいたします。

○増田氏 来週の伊勢志摩サミットで各国の経済成長の減速リスクへの対応ということが大きな課題になると思うのですが、成長と分配の好循環という日本型のモデルを提示するという意味で、このタイミングで少子高齢化という構造的な問題に正面から取り組んで、雇用環境の改善、雇用創出に取り組む。こういうことは非常に意味があることで、世界へのいいメッセージになるのではないかと思います。ぜひ、日本のプレゼンスを高めるという意味で発信していただきたいと思います。

それから、保育・介護人材の処遇改善の具体的な方向性をこの中で示してあるわけで、これも非常にいいことであると思うのですが、ぜひ実現に当たって、アベノミクスの果実を使って、財源についてももしっかり確保して、これを強力に進めていただきたいと思います。

今回のプランの内容なのですが、働き方改革、非正規雇用問題、結婚・妊娠・出産・子育ての充実、それから、介護基盤の整備。まさに地方がこの改革の舞台であると思います。ですから、地方が先鞭をつけて取り組むことで、東京一極集中の是正や地方への人材環流、若い人の地元定着の促進など、日本の構造的な問題の改革につながると思いますので、ぜひ地方を巻き込んだ改革につなげていていただきたい。このように思っております。

ありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございました。

続いて、大日方議員、お願いいたします。

○大日方氏 おはようございます。

最初に、一億総活躍社会とはどのような社会なのかということ、この実に多様な立場の方々が集まって議論する、このような場に参加でき、私自身も大変勉強になりました。ありがとうございます。

基本的な考え方の中で特に大切であると思われるのは、全員参加型の社会。これが単なる社会政策ではなく、究極の成長戦略であるということをはっきりと打ち出せたことであると考えております。子育て支援や柔軟な働き方を広げる取り組み、全ての子供たちへの質の高い教育の提供、そして、高齢になっても安心して生きられるバリアフリーなまちづくりや制度、サービスの充実。こうしたものはいずれも自治体や企業にとって義務ではなく、ビジネス機会をふやすチャンスである。こういうことをぜひ都度都度伝えていくことが必要であると思います。

頭をやわらかくして、既存の考え方にはとらわれない、発想する力。こうしたものを一人一人が身につけることが、安心して幸福な社会を築く力になります。こういった考え方を多くの人々が持てるように、私たちは意識変容を働きかけていき、そして一人一人の行動変容にまで結びつけていくこと。これがプランを実現するためにこれからやるべきことであると思います。

どうもありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

続いて、三村議員、お願いいたします。

○三村氏 本日の「一億総活躍プラン」は、急激に人口減少が進む中で、50年後の人口1億人確保を念頭にして、少子化対策を拡充しつつ、女性・高齢者等の活躍で労働力不足を補い、働き方の改革で生産性を向上させ、ひいては経済発展をも目指すという、まさに「新成長戦略」とも呼ぶべきものであると思います。とりわけ、2020年までにトレンドを変える必要がありますけれども、そのためのメニューも盛り込まれていることを高く評価したいと思っております。

あとは実行であると思います。時間は限られておりますので、主要項目に優先順位をつけて、適切なKPIを設定した上で、しっかりPDCAを回していただきたいと思っております。

唯一気がかりなのは、財源の確保であります。将来の成長の果実をぜひとも活用していただきたいと同時に、やはり社会保障の重点化・効率化をはじめ、高齢者の応能負担割合を高めるなど、「世代間の負担の分配」を軸にした社会保障改革によって財源を生み出していただきたい。

最後ですけれども、「全体感の見える化」をお願いしたいと思っております。これまでに発表されたいろいろな再興戦略等の既存政策メニューに加えて、今回、各種の会議ですばらしいメニューが提示されております。したがって、政

策メニュー及び考え方の全体像をわかりやすく整理し、主役である国民や企業が明確に理解し、勇気づけられ、将来に希望を持って投資や消費を実行しやすいようにすることも必要不可欠だと思います。

以上であります。ありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

では、樋口議員、お願いいたします。

○樋口氏 私のほうから3点ほど申し上げたいと思います。

1番目ですが、今回のプランで同一労働・同一賃金、さらには長時間労働の是正といった、従来、必ずしも十分議論されてこなかったもの。ここに本格的に着手したことは高く評価できると思います。我が国の働き方を改革するものとして評価されると同時に、またぜひ、これを実現して行ってほしいと思っております。今後、労使の納得した実効性のある具体的な制度設計といったもの。これができることを期待したいと思っております。

2番目は、公共調達におきまして、ワーク・ライフ・バランスの加点ということも私からも提案させていただきましたが、今回入れていただきましたことに厚く感謝したいと思います。ぜひ、多くの省庁でこれを活用していくことについてお願いしたいと思います。

3番目は、前回も申し上げましたが「成長と分配の好循環」につきまして、最近では国際的にも非常に注目されてきていると思います。分配を無視して成長の恩恵が広く国民に行き渡らない限り、やはり成長自体が長期的に持続することは難しい。そういった認識が共通認識として広がってきていると思います。今回、日本として「成長と分配の好循環」を具体化させるべき新たな日本型のモデルをほかの先進国に先駆けて提示したという意味で、ぜひ総理には伊勢志摩サミットにおいて御披露いただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

土居議員、お願いいたします。

○土居氏 一億総活躍国民会議の議論に参加させていただいたことを深く感謝申し上げます。

このプランは、複数の官庁にまたがる業務を一気に束ねて、しかも総理のリーダーシップのもとに調整をされたと聞いておりますので、私は大変いい、重要な第一歩となるプランであると思います。特に、この少子化対策、さらには介護離職ゼロに向けた取り組みというものは今までにも幾つか散在していたわけですが、それをこのプランの中で包括的に盛り込んだという点は高く評価したいと思います。

ただ、世の中にはこういう政策が必ずしもそれだけでは特効薬にならないの

ではないかという見方もありますが、私は決してそうではなくて、非常に重要な第一歩であると思いますので、ぜひとも政府から国民の皆さんに、このプランの含んでいる意味を一つ一つ丁寧に説明していただくことが大事であると思いますし、私も議員としてかかわらせていただいた人間として、微力ながらその理解の浸透に努めていきたいと思います。

最後に、このロードマップです。10年先の未来を見据えたロードマップが盛り込まれているということは大変重要な意味を持っていると思います。これを実行、PDCAサイクルを回すという意味でも、ぜひともフォローアップをしっかりとやっていただきたいと思います。

以上です。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

最後になりましたが、松爲議員、お願いいたします。

○松爲氏 最初に、国民会議に参加させていただきまして、感謝申し上げます。

さて、月曜日の『毎日新聞』の社説で、一億総活躍社会の実現に向けては共生の視点を忘れないで頂きたいという指摘がありました。今回提案されました「ニッポン一億総活躍プラン」は、社会の全ての人とその個性と多様性が尊重され、家庭や職場や地域で生きがいと活躍のできる社会を構成することを掲げ、かつ具体的な施策を明記しております。経済的な成長の視点ばかりでない論議についても盛り込まれております。したがって、同社の社説を含めた社会的な期待に十二分に応えるものと確信しております。

その中で、障害や難病のある方を含めた、いわゆる生活のしづらさを抱えた多様な人々に対しては、福祉から雇用への移行の促進に向けた施策を踏まえたものとなっております。すなわち、障害福祉サービスの充実というよりも、むしろ雇用と教育分野に焦点を当てた具体的な施策が明記されているとともに、就労支援を支える専門人材の養成が今後の対応として重要であることを指摘しております。特に、人材育成を今後の施策の方向性として明確にしたことの意義は大きいと考えております。

具体的な施策は、57ページから59ページの「⑧ 障害者、難病患者、がん患者等の活躍支援」に明記されております。そこには働くための環境整備や支援施策の推進、また、小中高等学校における特別支援教育の指導内容や体制等の環境整備の推進などが記されております。これらは、提示されたロードマップに即して、予算措置を確実に講じて実行していただくことを最後にお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

これまでいただいた御意見については、それぞれ御相談をさせて対応させて

いただいているところでございます。さらにプランの修正がありましたら、御意見をいただきたいと思っております。

それでは、政府側からございますでしょうか。

石破大臣から御意見を願います。

○石破まち・ひと・しごと創生担当大臣 地方は少子高齢化や加速化の最前線であり、地方創生は一億総活躍社会を実現する上で最も緊急度の高い取り組みの一つと考えております。過度の東京一極集中を是正し、我が国の人口減少と地域経済の縮小を克服するためには、それぞれの地域における実態を的確に捉えた施策を打つことが必要であります。

東京圏在住の学生や地元在住の学生が地元企業でインターンシップを行う地方創生インターンシップ事業（仮称）や、その前提となる地方での魅力的な仕事の創生及び地域ぐるみの働き方改革、中高年齢者の希望をかなえる生涯活躍のまちの推進、地域運営組織の展開・活動推進などを進めてまいります。先般、合衆国のCCRCを視察しましたが、そこに住んでいる人が、「天国とはこのことだ。あの世に召されることがあっても、私はここへ帰ってくる」と言っておいたのは極めて衝撃的なことであります。

今回のプランの中でもこうした取り組みが位置づけられておりますが、今後策定いたしますまち・ひと・しごと創生基本方針2016に沿い、地方創生の施策を本格的に展開いたします。

以上です。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

それでは、以上で議論は終わらせていただきたいと思っておりますが、国民会議の案として、この「ニッポン一億総活躍プラン」（案）を御議論いただいた、お決めいただいたということですのでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

それでは、最後に安倍総理から御発言をいただきたいと思っております。ここでプレスが入室いたしますので、しばらくお待ちください。

（報道関係者入室）

○加藤一億総活躍担当大臣 それでは、総理、願います。

○安倍内閣総理大臣 皆様、おはようございます。

本日「ニッポン一億総活躍プラン」の一億総活躍国民会議案を決定することができました。昨年10月以来、有識者の皆様には、大変多岐にわたり、かつ大きな課題について熱心に御議論をいただいたと思っております。果たして案をまとめることができるのだろうかというさまざまな御議論もあったわけでございますが、その中で本当に皆様には様々な視点からの的確な指摘あるいは提案等をい

ただきまして、本日こうした案をまとめていただいたことに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

少子高齢化の下での持続的成長は、先進国に共通する課題でありまして、もうじき始まりますG7伊勢志摩サミットの議長国である日本が、G7各国に先駆けて、少子高齢化の克服に向けた道筋を示すことは大きな意義がある、このように思っております。昨年のG20等におきましても、この議論の紹介をさせていただいたところがございます。今後、こうした課題について、共通の課題として国際的にしっかりと議論を進めていきたい。こう思っているところがございます。

一億総活躍プランでは、第一の矢について6年間、第二・第三の矢について10年間の期限を区切って、43のテーマについて、どのような施策を実行するか、具体的に示したところがございます。この国民生活における課題と方向性・対応策をこのように分かりやすく示し、かつ対応策においては工程的なものまで書き込んでいる案となったわけがございます。こういう政府の出すものは読みにくいものが多いわけではありますが、確かに分厚いですが、しかし批判する人はしっかりと読んでから批判していただきたいと思うわけがあります。このように大変分かりやすく、この挑戦とその道筋についてお示しをいただきましたことについて、重ねて御礼を申し上げます。

有識者の皆様には、今後、フォローアップ会合のメンバーに御就任いただきたいと思っております。大切なのは、実は政治の世界ではフォローアップでございまして、良い案をまとめていただいたとしても、それが果たして進んでいるかどうか、案を考えていただいた皆さんに見ていただきながら、叱咤激励もしていただきたいと思っております。また、それを案として提出をされた方々とは、政策として出した結果、その方向に進んでいるかどうかということもあるわけがございます。そういう意味において、私はフォローアップというものを重視をしております。是非御就任をいただき、このプランの実施状況について、しっかりと目配りをお願いしたいと思っております。

加藤一億総活躍担当大臣は、今日の国民会議案について、与党と議論を進め、月内に閣議決定できるよう、関係大臣と協力をして、作業を進めるようお願いしたいと思っております。

○加藤一億総活躍担当大臣　ありがとうございます。

それでは、プレスの方の御退室をお願いいたします。

（報道関係者退室）

○加藤一億総活躍担当大臣　有識者議員の皆様方には、8カ月間にわたり大変お忙しい中を、この国民会議あるいは意見交換会にも積極的に御参加をいただきまして、活発な御議論をいただき、このプランの策定に御協力をいただきま

した。心から御礼を申し上げます。

今後、今、総理からお話がありました。政府としては、この「ニッポン一億総活躍プラン」を閣議決定するため、与党との調整プロセスに入ることになります。この過程で出てまいりました修正点につきましては、皆様のところを回らせていただきながら御了解をとらせていただきたいと思います。

また、今回をもって一億総活躍国民会議は最終回となるわけですが、総理からございましたとおり、議員の皆様にはフォローアップ会合のメンバーとなっただきまして、毎年、定例的に進捗状況を審議する会合を開催させていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

本当に8カ月間にわたりまして、ありがとうございました。これをもって終了させていただきます。

ありがとうございました。